

**Panasonic NPO サポート ファンド【環境分野】**  
**2012年助成団体**  
**成果報告**

助成事業名：**地域の元気創生プロジェクト**

団体名：**NPO法人 自然体験共学センター**  
日付：**2013年3月1日**

# 応募当時の課題

自然体験共学センターのミッション

「地球と地域の持続可能な社会の構築に貢献」



さらに、地域に根づいた活動を展開するには。

## 【地域との関係における課題】

- ①子どもの体験活動に対する地域の方の協力体制が確立できていない
- ②地域外のメンバーによる上味見青年団が、継続的に活動を行なう仕組みづくりやメンバーのつながりを作る手立てができていない
- ③10年の活動を社会に対して発信する場への参加や活動の経緯などをまとめたものがなく、活動の発信力がない



共学センターが農山村地域に根づきながら活動を行ない、農山村地域を元気にしていくモデルとなっていくと考えた

# 助成事業の概要

【地域との関係における共学センターの課題を解決する3つ方針】

## ①子どもの体験活動における森の子応援隊の設置による協働体制の確立

→子どもの体験活動を支えてくださる地域の方で森の子応援隊を設立、



## ②上味見青年団を核にした継続的に若者が上味見地域に関わり合う仕組みづくり

→若者が継続的に上味見を訪れるための仕組みづくり(帰属意識の持たせ方)

## ③地域に根ざした自然体験活動団体としての地域への参入におけるノウハウ(経緯)のブックレット化及び社会への発信

→ブックレットの作成と清里ミーティングなどでの発表



# 助成事業の具体的な内容

## ①子どもの体験活動における森の子応援隊の設置による協働体制の確立

### 1) 森の子応援隊の設立

ねらい「子どもの体験活動への協力・アドバイスを地域の方からいただき、**地域とのつながりを深め、各活動の質を高めていく**」

【森の子応援隊のモデル】 長野県泰阜村のあんじゃね支援委員会



### 4/9 第1回会合の開催

→地域の方9名に参加いただき、森の子応援隊の初会合を行い、応援隊の正式発足



### 6・10・12月に会合を実施

→夏キャンプ・冬キャンプにおける活動のアドバイスや協力の依頼を行なう。



### 1) 森の子新聞の発行、地域への全戸配布

活動を知ってもらうため、活動をまとめた森の子新聞を作成し、全戸配布。(3,7,9月)  
(活動の報告、活動における依頼事項などを掲載)

# 助成事業の具体的な内容

## ②上味見青年団を核にした継続的に若者が上味見地域に関わり合う仕組みづくり

### 1) 青年団の組織作り

青年団メンバーと相談しながら、上味見青年団の規約を作成。

上味見青年団の目的「心のふるさと上味見地域を若者の力で盛り上げ、地域の元気を地域の方(農村の力)と一緒にあって創り出していく。」

上味見青年団の心得「1. 上味見地域の人と共に、学び・行動し、形にする。  
2. 上味見地域の人と共に、集い・語らい、熱くなれ！」

### 2) 共学センターと青年団の再整理、仕分け

共学センターと青年団とのかかわり整理し、共学センターにおける青年団 およびその活動の位置づけの明確化

### 3) 青年団メンバー間のつながりを作るための仕組みづくり

青年団MLの開設、フェイスブックのグループ作成





# 助成事業の具体的な内容

## ③ 地域に根ざした自然学校としての地域への参入におけるノウハウのブックレット化及び社会への発信

### 1) ブックレット作成

共学センターの活動の経緯(2001年～)やこれまでのノウハウ、上味見地域と共に取り組んでいることをまとめたブックレットを作成。

#### 共学センターブックレット

#### 「過疎地域の飛び込んだNPOの軌跡

～災害から生まれた自然学校が展望する新しい役割～

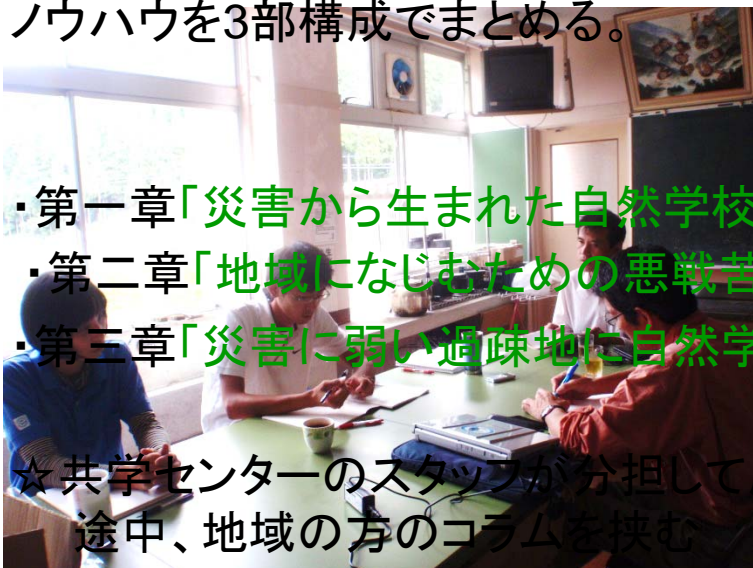
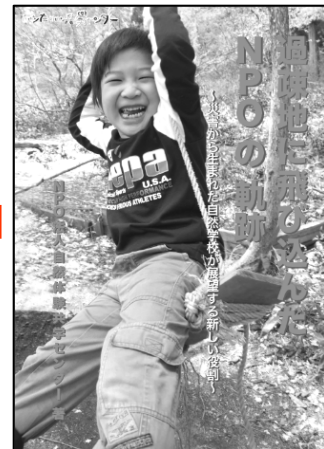
⇒活動を始めてから10年の経緯や

ノウハウを3部構成でまとめる。

- ・第一章「災害から生まれた自然学校」
- ・第二章「地域になじむための悪戦苦闘」
- ・第三章「災害に弱い過疎地に自然学校がある意義」

☆共学センターのスタッフが分担して原稿を執筆。

途中、地域の方のコラムを挟む



# 助成事業の成果

## ①森の子応援隊の結成によって

【これまで】相談したい地域の方のところに伺って、直接相談、もしくは、お願いをする。  
→相談しに行く時間がなかなか取れない。



応援隊の結成で...

- ・多くの方に活動のアドバイスをいただけるようになった。
- ・共学センタースタッフと地域の方との話し合う場が増えた。  
→それぞれが思っていること・感じていることを出し合う場ができた。

## ②上味見青年団の活動について

【これまで】・若者の活動・青年団の活動が、共学センターの一つの活動でしかなかった。



上味見青年団の組織化で...

- ・共学センターのいち活動から上味見地域の青年団へとさせていくことができた。
- 【課題】・実活動ができるメンバーを安定的に募る仕組みはできなかった。

# 助成事業の成果

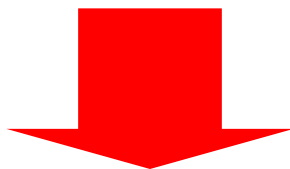
## ③ブックレットの発行、外部への情報発信について

【これまで】共学センターのこれまでの活動経緯やノウハウをまとめたものがなく、どこかで説明する時も、共学センターが何なのかを説明するものがなかった。



ブックレットの完成で…

- ・共学センターのこれまで・これからをまとめたブックレットができた。
- ・スタッフが一丸となって今までのこと・今からのことをまとめたことで、ここまでの経緯をふりかえることができた。



若者と農山村とのかかわりにテーマ絞って…。

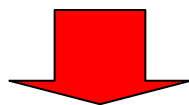
グリーンツーリズム全国大会の分科会・清里ミーティングのワークショップの実施  
→共学センターの活動のこと、上味見青年団のこと、上味見地域における若者の都市と農村の交流について発表し、社会に対して取組みの発信を行なった。



# 助成事業の総合評価

【2012年 組織基盤強化のねらい】

地域と共学センターとのかかわりをより深くしていき、農山村に根づいた活動の強化を図るとともに、これまでの地域と共学センターとのかかわりを社会に発信していく



今まで以上に、共学センターと上味見地域との関わりを意識した1年に…。

- ・森の子応援隊による共学センターへの地域の協力体制
- ・上味見青年団による地域の行事や地域の活性化への寄与  
⇒共学センターも上味見地域も今までよりも一歩踏み込んだお互いに支えあう関係づくり
- ・ブックレットの作成における地域との関わりを再認識  
⇒NPOと農山村地域とのかかわりの一つのモデルとなっていくための布石

# 助成事業後の展望

【2012年】

農山村地域と地域に根づいたNPO団体が  
より上味見地域に根づいた活動への展開へとシフトしていくための基盤づくり



今までよりもお互いに一歩ずつ踏み込んだ  
関係づくりができたからこそできること。

【これから】

- ・NPOと農山村地域との協働による農山村でしかできない活動
- ・農山村フィールドにモデル性の高い新たな取組み

⇒NPOが持つ機動力と外部とのネットワーク、農山村地域が持つ  
ポテンシャルを組み合わせた農山村を元気にしていく取組み



元気な農山村を作っていく、持続可能な地域づくりを行なっていく。

【共学センターミッション】

「地球と地域の持続可能な社会の構築に貢献」していく

# キャパシティブルディングのコツ・ノウハウ

## ・チャンスを活かす。

⇒これからの共学センター活動において地域の協力、関係性を深めていくことは必須。そこを強化できたことが組織としてのこれからを作っていくチャンスとなった。

## ・ターニングポイントをつくる。

⇒組織としてこれからを見据えた時のターニングポイントを作っていく。  
今までとこれからを変えていくポイント。

【今まで】

・地域との信頼関係を作り、無我夢中で活動を創り上げてきた

【これから】

・地域とNPOとの連携・協働による活動の展開。農山村とNPOとの強みを活かした活動の展開へ、さらに、その取組みを社会へ